

科目名 Course Name	発達心理学 Developmental Psychology			ナンバリング No.	K1-003		
年次	1年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	榊 緑						
連絡先(質問等)	C-Learning 対応						
必修/選択	選択(保育士養成課程必修)						
関連 DP	DP1, DP2						
授業の概要と 到達目標	<p>「発達心理学」は、人の一生における、身体諸器官・運動諸機能・精神諸機能・対人関係などに生じる様々な“変化”に対し、心理学的な見地から法則性を見出し貢献しようとする学問である。本講義では、発達全体に関する知見の習得と、特に胎児期～幼児期の発達の特徴の理解に焦点を合わせ、学習していく。</p> <p>従って到達目標としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「発達」に関わる様々な心理学的現象を第三者に説明できるようにする。 ②子どもたちの変化のありようを確認する際の着眼点を学び、養護と教育の一体性及び発達に即した援助の基本を了解した上で、事例等に対しそれらを適用できるようにする。 ③発達初期の重要性を認識し保育における相互作用や実体験、環境の意義を弁えた上で、説明できるようにする。 ④胎児期(妊娠期)～幼児期の発達の特徴と支援のポイントを知り、説明できるようにする。 						
授業の方法	<p>視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて実施する。単元の終了ごとに小テストを行う。グループワークを行い、この体験をレポート課題にする。</p> <p>好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。</p>						
学習成果	L01	①大まかな発達の流れを掴み、発達のしくみを学び、各々の段階で現われてくる諸現象の知識を持つことができる。					
	L02	②目の前にいる子どもをより深く具体的に解釈する視点を身につけることができる。					
	L03						
	L04						
課題に対する フィードバック	小テストは実施翌週に返却する。学生はその問題をヒントに期末考査の論述試験対策を行う。自発的学習者には随時模擬論述の添削を行う(ただし第15週まで)。						
教科書/ 参考図書	教科書:「保育の心理学」児童育成協会[監](中央法規)。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。						
履修上の留意点 やルール等	<p>発達についての知識無くして保育・教育現場での適切な関わりは期待できない。従って、私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。私語を慎み、真剣に受講すること。事前・事後学習時間の目安は各回180分相当とする。</p> <p>原則としてこどもフィールド用開講科目であるが、進学希望などの事情がある場合は他フィールド学生でも受講を認め得るので、担当者に相談されたい。</p>						
担当教員の 実務 経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。	15			
レポート／作品	ワークでの学びについてレポートを提出する。相互作用から得た多角的な視点を期待する。	20			
発表					
小テスト	単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施し、日常の努力点として勘案する。用語は正確でなければならない。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。	5			
試験	学年末に論述試験を実施。授業目標①～④が反映された、設問への妥当な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。	60			
その他					
合計		100			

回数	授業計画	
1	授業内容	オリエンテーション: 授業の方法と計画の説明 心理学という学問 発達とは 保育に求められる発達の知識
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、他専門教科と心理学との関係性をマッピングする。
2	授業内容	発達のしくみとその援助: 発達の法則と現象
	事前・事後学習	抽象(法則)と具象(実例)とを紐付けする訓練を開始する。通常用いているノートに書き付けることを推奨する。
3	授業内容	発達のしくみとその援助: 初期経験の重要性 レディネス 敏感期(学習最適期)
	事前・事後学習	幼少期に学習しておいた方がよいと思われることを列挙する。また、それらの能力の中に、20歳になってからでは体得が難しいものがあるかどうかを、検討する。
4	授業内容	発達のしくみとその援助: 遺伝と環境 環境が発達を支援する
	事前・事後学習	「発達のしくみ」の単元を総復習し、小テストに備える。
5	授業内容	保育の心理学: 子どもの発達を理解することの意義 発達観・子ども観と保育
	事前・事後学習	自分が有する子ども観と、他者の持つ子ども観を比較し文章化する。立場や年齢層、ジェンダーの異なる対象と意見を交わすのが望ましい。
6	授業内容	保育の心理学: 子どもの学びの特徴とその過程 子どもの学びを支える保育
	事前・事後学習	事前学習として、幼児期の遊び経験で特に印象に残っているものを挙げておく。事後学習として、そこから自分が学び得たもの(能力)を紐付けする。また、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
7	授業内容	保育の心理学: 保育に心理学理論を役立てる(事例への適用) ワーク&【次回レポート提出】
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、ワーク体験を基にレポートを作成する。「保育の心理学」の章の総復習を行い、小テストに備える。
8	授業内容	胎児の発達過程: 胎児期の発達について 妊婦への支援
	事前・事後学習	自分の周辺環境に在る、妊婦にとってのマイナス要因を点検する。また、それを改善するにはどうすればよいかを考察し、ノートにまとめる。さらに、次回小テストに備える。
9	授業内容	新生児の発達過程: 新生児の特徴とその感覚 新生児期の運動能力と認知能力 低体重出生児・母親へのケア

	事前・事後学習	事後学習として、授業内で視聴する低体重出生児の母親の心理を考察し、提供できるケアをノートにまとめる。また、次回小テストに備えると共に、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
10	授業内容	乳幼児の発達過程:乳幼児期の身体・運動機能の発達 身体とこころの関係 基本的生活習慣の育成
	事前・事後学習	幼児との接触経験から、子どもの一日を振り返り、「身体感覚」が関係していると思われる活動を列挙する。また、返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
11	授業内容	乳幼児の発達過程:乳幼児期の知覚と認知 知的機能の発達 子どもは世界をどう捉えているのか
	事前・事後学習	園生活の中で、子どもが強く関心を持つ事象を挙げる。また、乳児・年少児・年中児・年長児のそれぞれに関心を持たせたい事柄を1つずつ挙げ、どのような環境設定や保育活動が望ましいかを考える。
12	授業内容	乳幼児の発達過程:乳幼児期の感情・社会的情動と自我の発達 他者との関わりから芽生える愛着 社会情緒的コンピテンス
	事前・事後学習	子どもの感情を育てる環境とはどういうものかを考え、必要なものが欠けている場合における対処を学友と相談する。
13	授業内容	乳幼児の発達過程:乳幼児期の言葉の発達 言葉の働き
	事前・事後学習	「子どもの言葉」と「大人の言葉」の特徴や機能の相異を挙げる。学友と相談してもよい。
14	授業内容	乳幼児の発達過程:乳幼児期のコミュニケーション能力 乳幼児期の社会性の発達
	事前・事後学習	幼児期の対人関係上のトラブル事案を思い出し、その原因と経過を描写する。また、単元の復習をして次回小テストに備える。
15	授業内容	乳幼児の発達過程:乳幼児期の人格の発達 主体性を育む保育とは
	事前・事後学習	主体性とはそもそも何であるかを自分の言葉で表現できるようにする。また、これまでの授業内容全てを復習し、期末考査に臨む。